

京都南山城支部大会特別事項 ○夏季大会

※記載無き内容は『東京都少年野球大会規則と重要事項』に準じる

1. 大会ルール

(1)	塁間	投手板- 本塁間	試合時間	球数制限	備考
A/Bの部	23m	16m	80分または 6イニング(注1・2)	5・6年生：70球/1日 4年生以下：60球/1日 (注3)	球数制限はタイブレーク(別途説明)も対象とする ダブルヘッダーや二重登録選手 (例：同日にAとBの試合に出場)も対象とする
Cの部		15m			

(注1)75分を超えて新しいイニングには入らない。(※同点の場合は、タイブレーク、延長に入る)

(注2)日没、降雨、雷等の取扱い

時間50分(均等回)または4回終了で試合成立とする。それ以外は、後日再試合とする。(A/B/C全ての部に適用)

(例1)

チーム	1	2	3	4	5	6	計
A	2	1	0	1			
B	1	2	0				

(a)時間50分未達または4回未完了
・予選リーグ/決勝トーナメント：再試合

(例2)

チーム	1	2	3	4	5	6	計
A	2	1	0	0	3		3
B	1	0	2	0			3

(b)時間50分経過または4回完了
・予選リーグ：引分 ・決勝トーナメント：再試合

(例3)

チーム	1	2	3	4	5	6	計
A	2	1	0	0	5		3
B	1	2	0	1			4

(c)時間50分経過または4回完了
・勝利チーム：B(注3)球数のカウントは、選手の疲労状況に最善の注意を払っていただく事を念頭にチーム管理とします。
(この球数制限は、過度な投球による投手のヒジ、肩への疲労蓄積を抑制し怪我を防ぐ手段である。)

(2)特別ルール

- ①Cの部(予選リーグ)は1イニング7点で攻守交替とする。
勝敗が決した状況でもリーグ戦順位決定の為、最後まで試合を行う。
- ②Cの部もコールドゲームを採用する。
- ③Cの部のポークは、予選リーグは注意とする。決勝トーナメントからは採用する。

(3)選手登録

- ①予選リーグ
当日の打順表記載の選手で試合を行う。
A/Bの部においてチームは、4年生以下が出場する場合は、打順表の背番号に○印を付ける事。
- ②決勝トーナメント
決勝トーナメントは、最初の試合前に本部所有の登録表を確認し、必要があれば追加・変更を行う。
それ以降は、変更出来ない。

(4)決勝トーナメントでは三位決定戦は行わない。準決勝戦敗退チーム2チームを三位として表彰する。
銅メダル、敢闘賞を授与する。

2. 試合について

(1)A、Bは、決勝トーナメント制で行う。(リーグ戦は行わない)
Cは、リーグ戦(4チームの総当たり)で行い各リーグ1位・2位のチームは、決勝トーナメントに進出する。
(変則リーグの決勝トーナメント進出チームは抽選時に示される決勝トーナメント表による。)

(2)リーグ戦の順位決定は以下とする。

- ①勝ち点の多いチーム
 - ②同点チームの直接対決の勝者
 - ③同点チームの失点差
 - ④同点チームの直接対決の勝者
- ※①～④で順位が決定しない場合は、決勝トーナメント初戦でタイブレークを行い勝敗を決定する。

(3)勝ち点について

- ①勝ち：2点
- ②負け：0点
- ③引分け：1点
- ④変則リーグの4試合のチームの勝ち点は、4試合の勝ち点の合計 ÷ 4試合 × 3試合 で算出する。

【特例】決勝トーナメント進出決定タイブレークを要するとき

- ①打順表は新たに提出し、先攻後攻を決定する。
- ②攻撃は無死一・二塁、一番打者から行う。一塁走者は九番打者、二塁走者は八番打者とする。以降は打順表記載の継続打順とする。
- ③タイブレークは勝敗が決するまで行う。
- ④球数制限は対象とする。

(4)予選リーグは、抽選時に八幡市、大阪府、枚方市、南山城支部で地域割を行う。

3. タイブ레이크について

決勝トーナメントで6回及び時間が経過し同点の時に進行。

南京都少年野球連盟特別規則 【タイプブレーク・特別延長戦】

1. 継続攻守順で、無死一・二塁の継続打順で行う。
2. 前回の最終打者を一塁走者、二塁走者は順次前の打者が走者に入る。
3. 同じ回の終了で点差がついた時点で終了する。

予選リーグ	決勝トーナメント	
	1回戦～準決勝戦	決勝戦
引分け	最大2回+抽選	勝敗が 決するまで

4. その他

(1)日程に関して

- ①学校行事、チーム行事は遅くとも2週間前には当支部・日程調整担当者に申し出る事。
- ②他大会の予定については、勝敗に関係無く、出場大会を当支部・日程調整担当者に申し出る事。

(2)大会に対しての不正行為

- ①出場資格に不正のあった場合
 - a. 試合開始前は厳重注意、試合中に発見された場合は、いかなる理由であっても相手チームに勝利を与える。
 - b. 試合終了後に発見された場合は、相手チームに勝利を与える。
 - c. 決勝戦終了後に発見された場合は、準優勝チームの勝利とする。
- ②大会本部、審判への暴言はいかなる理由であっても認めないとともに、当連盟の関係する大会への出場は認めない。

(3)マナーアップ

- ①監督、コーチから選手への暴言は厳に慎む事。
 - ②試合中の審判への暴言は認めない。
- ※審判からの注意に従わない場合は、グラウンドからの退場を命じる。

(4)チームへのお願い事項

- ①ベンチ入りできるのは登録表にある、代表1人、監督(背番号30)1人、コーチ(背番号29、28)2人、スコアラー1人及びトレーナー(有資格者)の最大6名とする。ただし、本部が認めた場合、選手の給水係として大人2名のベンチ入りを認める場合がある。
- ②決勝トーナメントで監督不在の時は、コーチの28番又は29番が監督代行し、必ず事前に球審及びコート責任者に届ける事(打順表(メンバー表)にも代行者名を記入)。但し監督、コーチが不在でも大会進行上必要と連盟が認めた場合はその試合に限り代理を立てる事を認める。
- ③スコアラーも帽子を着用の事。
- ④チームはグラウンド到着後、連盟指定の打順表(メンバー表)を受け取る事。試合開始予定時刻になっても、球場に来ないチームは、原則として棄権とみなす(9名選手が揃ってない場合も)。試合開始30分前に到着出来ない場合は、必ず事前に会場責任者まで連絡を入れる事。打順表は、予選リーグは当日試合に出場する選手を記入する事。
- ⑤抗議できるのは、監督と当該選手の内1名とする。但し、審判の裁定が規則の適用を誤って下されたとき疑いがあった時のみ行う事が出来る。また、抗議は1分以内とする。
- ⑥打者が頭部へヘッドボールを受けた場合、ベンチに下がり安静にする。その際は前の打者(投手、捕手を除く)を臨時代走として試合を進める。
- ⑦雨天中止については、ホームページにアップする。雨天連絡網に問い合わせをする場合はチームを代表する1名が問い合わせをする事。

(5)試合前練習等について

- ・試合会場での練習については、必ず本部に確認してください。(会場により運用が異なります)
- 基本グラウンドでゲームを行っている場合、ボールインプレー場所として練習は認められません。
- ※但し、ピッチャーとキャッチャーによる投球練習は例外とします。

(6)試合中の行動について

- ①攻撃回バッターはネクストバッターサークルで待機、審判のワンモアピッチの発生と同時にバッターボックスに、ベースコーチもコーチーズボックスに移動する。
- ②監督・コーチ・選手のサングラス着用について、帽子の上にサングラスを乗せる事は認めない。(着用するか外すかのどちらかとする。)また、投手の着用はミラータイプは認めない。
- ③素振りについては、当該バッターのみとしネクストバッター及び他の選手のベンチ内外については、安全面を考慮し禁止とする。
- ④試合中ベンチから出られる選手・コーチについては、バッター・ネクストバッター・ベースコーチ・投球練習2組と監督(代理監督を含む)としその他のものは、みだりにベンチから出てはならない。
- ⑤捕手のレガース等の着用は、ベンチ前で行う事。(試合進行時間短縮に協力すること)
- ⑥捕手は準備投球時、ヘルメット、フェイスマスク、プロテクター、レガースを着用すること。
(※上記着用ができてない場合、捕球者は安全上を考慮し座ることはできない。特に代理捕球者に該当します)

(7)試合後について

- ①試合終了後は、速やかにベンチを空けてミーティング等はせず、早くグラウンドを後にする事。